

## 促成栽培における鉢花チューリップの草姿改善

### 1. はじめに

埼玉県はチューリップの生産が盛んで、年末から早春にかけて様々な花色や花型の切り花や鉢花が出荷されています。

花を早く咲かせる促成栽培では、球根を冷蔵庫（庫内温度 5℃）に 8 週間入れて、低温処理した後に鉢へ植え付けます。しかしながら、チューリップの鉢花は、茎が伸びすぎると鉢とのバランスが悪くなり、商品価値が低下します。そこで、低温処理の温度と期間を変えることにより、草姿を改善する栽培法を開発しました。

### 2. 草姿改善技術

球根の低温処理は、図 1 の 4 品種について、4 つの試験区を設けて行いました。低温処理の温度は 5℃で、期間を 3 週間、5 週間、8 週間に変えた 3 区と、低温処理の温度を 5℃で 3 週間、その後 12℃で 5 週間の 1 区を設定しました。各試験区の低温処理後に球根をプランターへ植え付け、最低気温 14℃で栽培しました。

試験区	低温処理の温度・期間
1	5℃で 3 週間
2	5℃で 5 週間
3	5℃で 8 週間（慣行）
4	5℃で 3 週間、その後 12℃で 5 週間

その結果、5℃での低温処理期間を短くするほど、茎が短くなることがわかりました。しかしながら、5℃・3 週間の低温処理では、‘パープルプリンス’、‘ストロングゴールド’、‘ファンシーフリルス’は球根が発芽しなかったり、花が正常に開花しなかったりしました（図 1）。これらの品種では、5℃・3 週間後に 12℃・5 週間の低温処理を行うことにより、慣行の 5℃・8 週間と比較して、茎が短くなり正常に開花しました。

さらに、‘サニープリンス’を用い、5℃・3 週間の低温処理を行い生産者の温室で栽培した結果、問題なく開花することが確認できました（図 2）。

### 3. まとめ

促成栽培において 5℃の低温処理期間を短縮すると茎が短くなることがわかりました。また、この処理により開花率が低下する品種については、その後に 12℃の低温処理を組み合わせることにより、開花率が回復することがわかりました。

品種ごとに有効な低温処理方法を行うことで、鉢花の草姿を改善することができました。

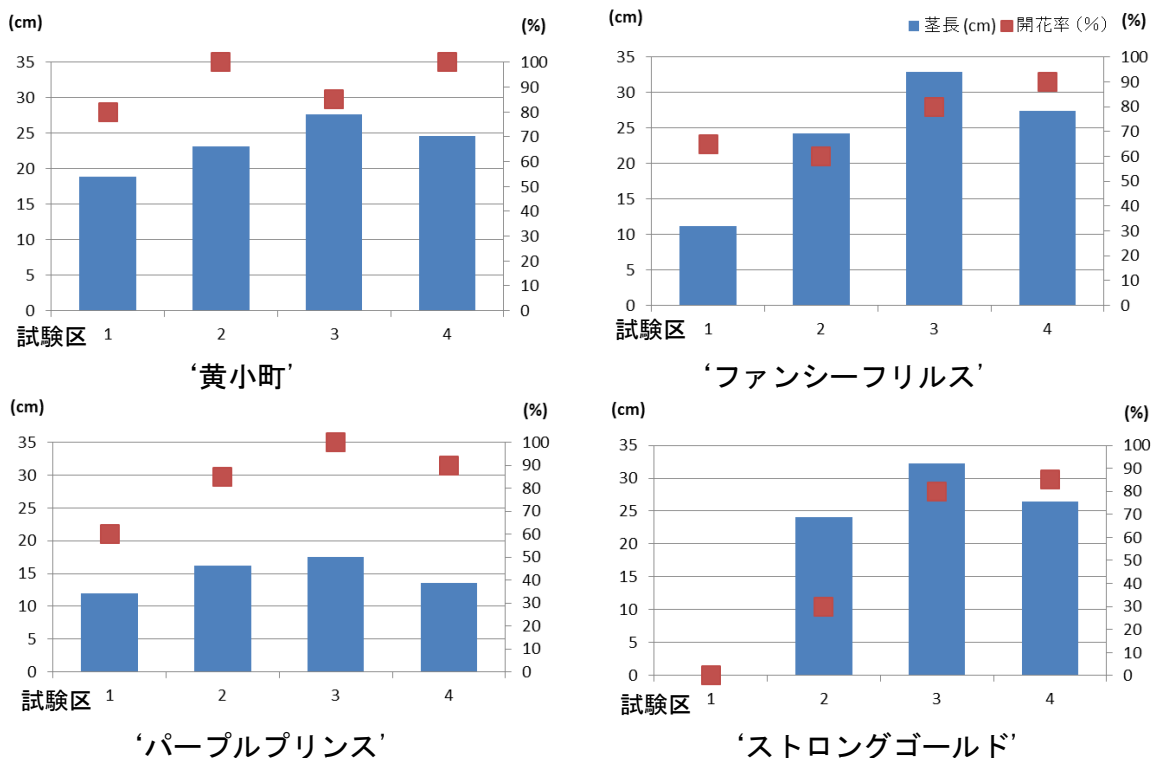


図1：促成栽培における低温処理が茎長と開花に及ぼす影響



図2：5°Cの低温処理期間が草姿に及ぼす影響  
(品種：サニープリンス')

【お問い合わせ先】

農業技術研究センター高度利用・生産性向上研究担当施設園芸先端技術研究チーム  
 電話：048-536-0311 (代表)    FAX：048-536-0315  
<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0909/index.html>